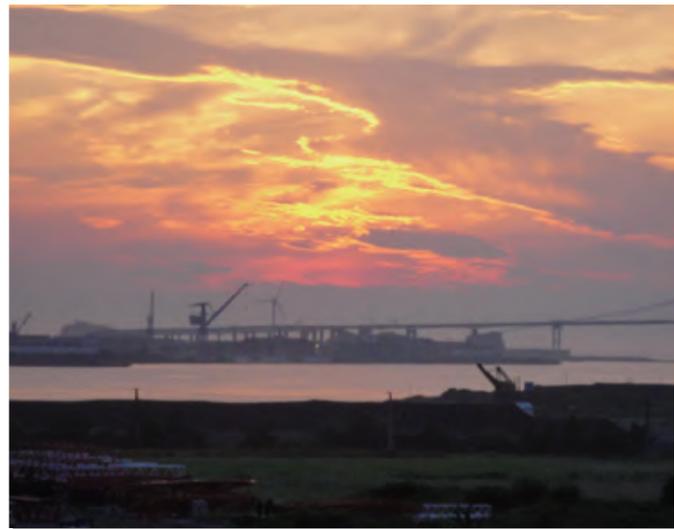


良質な介護サービスの提供をめざして。

ひだまりの家 夏の夕景

その名の示すように朝は「東」イタンキ浜方面から、昼は「南」日鋼工場群から、そして夕方は「西」測量山・室蘭港方面からと一日中陽が差し、ホームはほのぼのと“ひだまり”に包まれる。取り分け夏、秋の夕陽は白鳥大橋、大黒島の上空が茜色に染まり“生きててよかった”と。何とも言えぬ無常観を感じさせます。



職員・スタッフ ワクチン接種 **完了**

ひだまりの家かかりつけ医である「ふじかね内科医院」藤兼Dr.によるワクチン接種は、まず初め5月二度に渡って入居者さま全員の接種が終わりました。7月に入って市内他の高齢者介護施設に先駆け職員スタッフのワクチン接種が行われ、こちら7月末までに二度目を無事終了しました。藤兼医院長には感謝の気持ちでいっぱいです。これで万全、とは言えませんが、ひだまりの家関係者全員が終えたのでひとまずは安堵です。

(代表 加藤栄吉)



七夕 7月7日

社長が観光道路沿いの山から採ってきた笹竹。入居者の皆さん、職員スタッフがそれぞれの思いを短冊に書き入れました。「コロナ早く終わって」コロナ関連のが一番多かったです。天の星に届くかな!?

今月のディスプレイ

夏＝海を思わせるバージョンですがコロナ禍で来客数が少ないのは寂しい限りです。

7月

シリーズ③ 職員 私の趣味・特技



大野 真紀
2階「海」ユニット 介護福祉士
平成23年2月入社 (勤続10年)

趣味は日本ハムファイターズの野球観戦、杉谷拳士選手の熱烈ファンです。年間10試合は札幌ドームに足を運び、熱烈応援で沢山の勇気と元気をもらい帰ってきます。去年、今年とコロナ禍で思うに行けずいらしています(試合成績も含め #^ω^)。特技は折り紙など装飾品の作成で、季節ごとに作って2階海ユニットの壁に飾っています。入居者様にほめていただくと作り甲斐もあります。

【仕事への抱負・意気込み】

介護の仕事に就いて10年が経ちました。4年前に突然病気が見つかり入院、手術、抗がん剤治療など辛い日々が続きました。加療し健康を取り戻し、再び職場に復帰することができましたが、何より入居者様の笑顔、ひだまりの職員スタッフの優しさに支えられようとして頑張ることができました。これからも“目配り・気配り・心配り”を忘れず日々努力していきたいと思ひます。

地域密着型 カルガモ親子騒動記

☑6月初旬晴れた日の午後、今井友子看護師が「カモの親子がカラスに追いかけている」と叫びながら玄関を飛び出して行った。何とカルガモの親鳥とひな2匹が向かいのチョロチョロ水が流れている側溝の中を歩いている。電線にカラスが停まって「ガァーガァー」威嚇している。時折飛び降りて側溝に近づき、親鳥はそれに対抗して羽を伸ばし向かい合う。

☑そのうち職員の何人もやってきて様子を見守り「このままならカラスの餌食になる、何とかしなくては」とひな鳥の捕獲作戦に取り掛かる。その騒ぎを聞きつけ近所の住民も出てきて総出になり、やっとの思いで2羽を無事捕獲。

☑一件落着と思いきや、どこからかまだ鳴き声が聞こえてくる。「どこだろう、まだ他にいるんだろか?」職員スタッフと近隣住民がその音の聞こえる箇所を捜した。何と向かいの住宅玄関前の側溝の中から聞こえるではないか。厚い蓋がして中が見えない。

☑油家事務長が蓋をこじ開けるとなんと5匹のカルガモのひながいた。厨房献立担当の新田靖恵スタッフが「可哀そう」と一羽ずつ取り上げ段ボールに入れ捕獲。さてどうしたらいいか知恵を出し合う。市役所、胆振振興局、水族館に連絡してみよう。しかし「自然(界)のもの

なのでそのままにしておく以外ありません」とどこもそっけない答しか返ってこない。

☑水の流れる側溝に戻し親鳥が救済にくのを待とう。カラスの攻撃があるので側溝の上に木の蓋をして横に網を張って放してやる。カラスもこれでは手が出ない。ところが光の差す網の隙間から外へ出てきて、ちよろちよろ土手を歩きまわる。一同「困ったな〜」。見かねた向かいのSさん宅の娘さんの旦那さんが「うちの会社(日の出町)の後ろに池がある」とペットのケージに入れて運んで行くことになった。いやこれでひとまず一安心。二日後の室蘭民報に祝津町の池にカルガモの親子が住み着いているとの記事が出て、数日でひなたちは親から離れ巣立って飛び立っていくこととなった。あのひなたちも一人立ちして飛び去って行ったに違いない。

☑グループホームは介護保険上「地域密着型」に定義され、平素より地域住民と結びつきを持つよう定め指導を受けている。この度近隣住民とひだまりの職員スタッフとが一緒になって「カルガモ親子救出作戦」に取り組み、それを入居者さんが窓から微笑みながら眺めていたのは、まさにその本旨に沿ったものであると言えましょう。



突然やってきた珍客カルガモ親子 | じっと見下ろし、飛び降り威嚇する | 愛らしく何としてもカラスから守ってやらねば | 近所の住民も出てきて様子を見守り「何とかしなくちゃ」

お誕生日おめでとう



Y.S.さん
昭和36年6月8日(93歳)
お孫さん、ひ孫さんがプレゼントと伴にご家族皆さんの写真入りメッセージの色紙を届けてください。



T.M.さん
昭和3年6月10日(93歳)
いつもは遠く離れた函館の甥御さん室蘭の姪御さんが参加してくれるのですがコロナ禍残念です。でもプレゼントにご満悦の森田さん。



A.O.さん
昭和7年7月13日(89歳)
遠く離れた横浜の長男ご家族からお花が届きました。「いつになつたら会えるのかしらね」来年のお誕生会には顔を見せてください。

